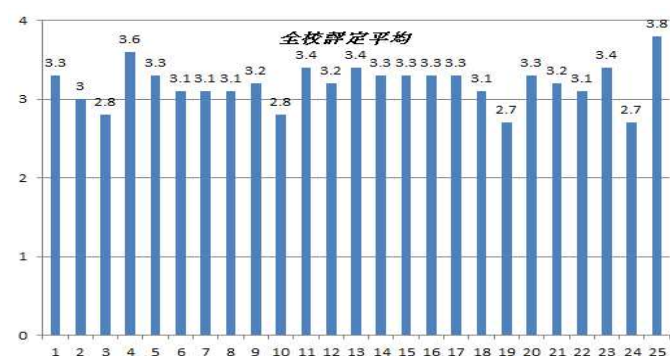
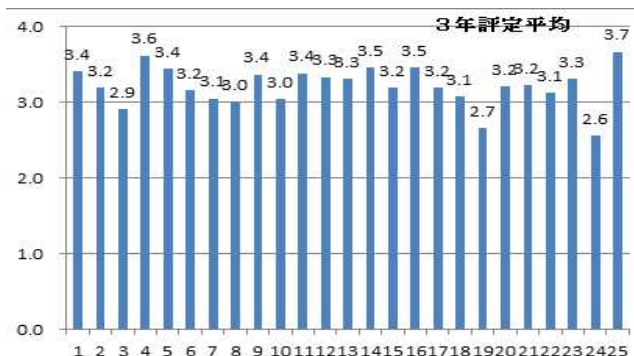
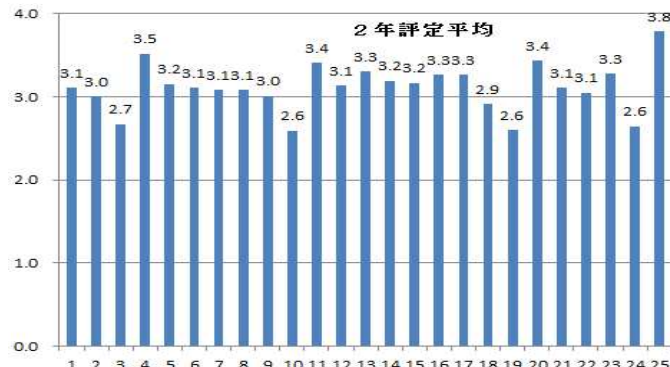
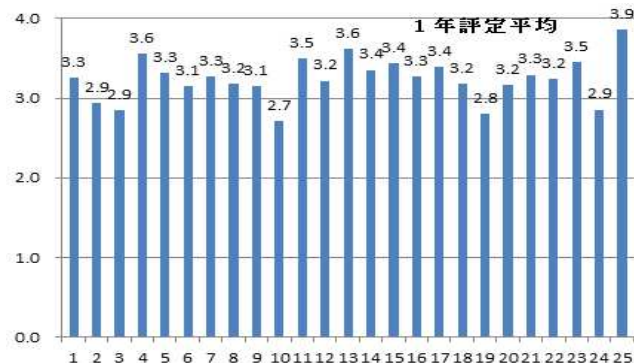


2、学校評価のための生徒アンケート結果

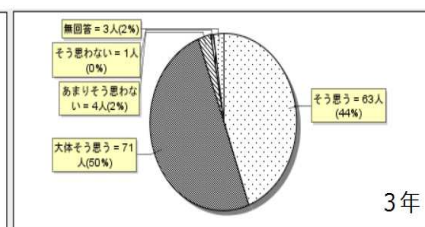
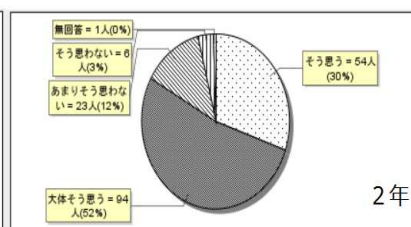
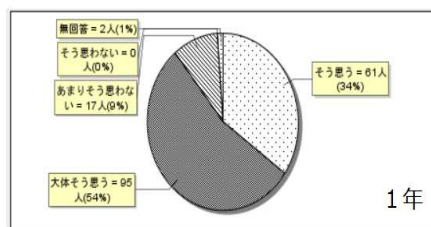
4：そう思う 3：大体そう思う 2：あまりそう思わない 1：そう思わない

1年174名/190名 2年176名/184名 3年142名/144名 合計496名/518名※縦軸（評価点数平均）・横軸（評価項目）

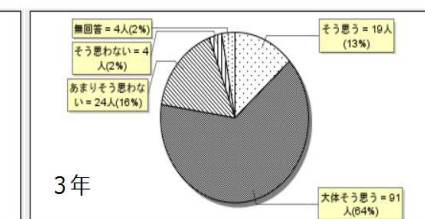
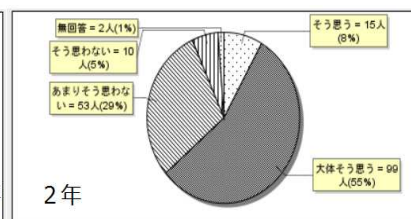
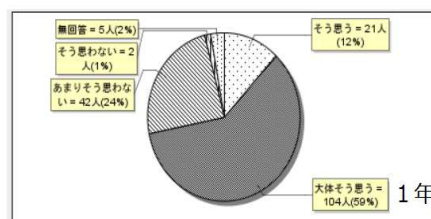


(1) 学校全体について

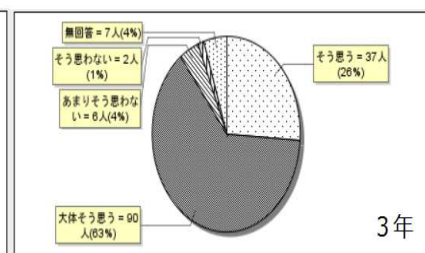
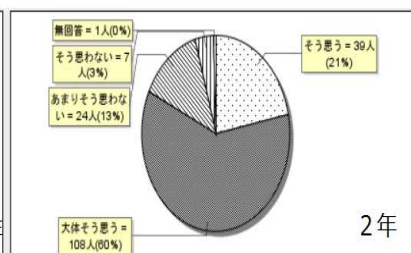
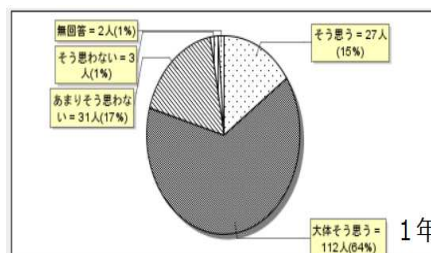
1. 久寺家中は好きですか



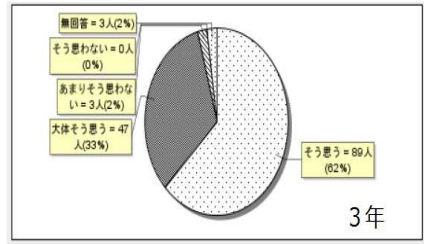
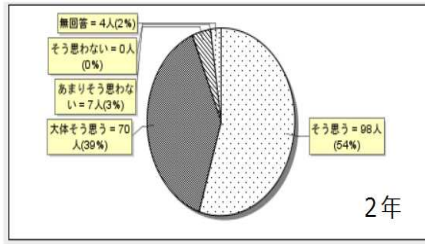
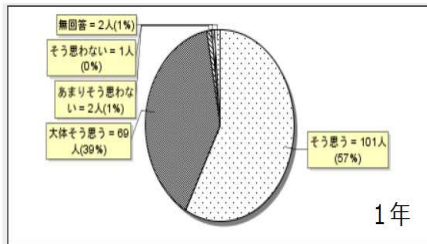
2. 校訓「自学・礼節・鍛錬」の意味を理解していますか



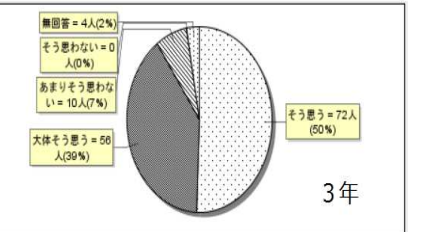
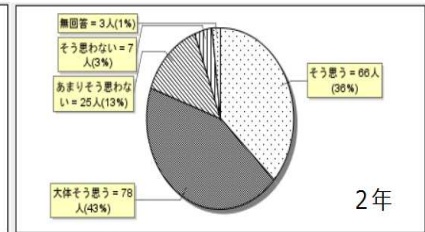
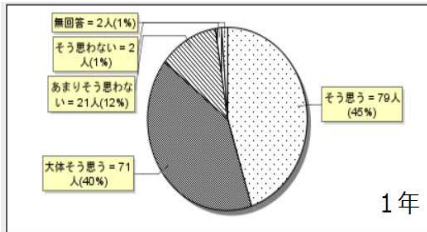
3. 今年度の重点目標「情操豊かで品位のある生徒」像に少しでも近づくことができましたか



4. 仲間を大切にしていますか



5. 色々なことに興味を持ち挑戦したいものはありますか

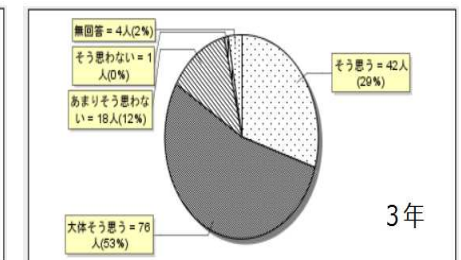
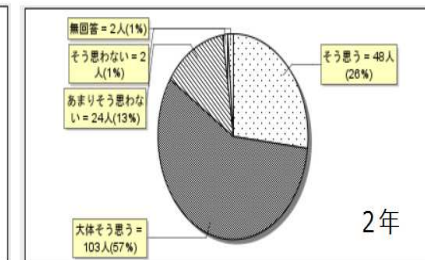
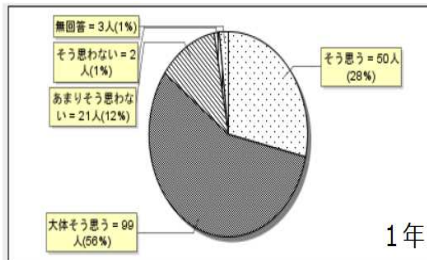


《考察》・・・(1)学校全体について

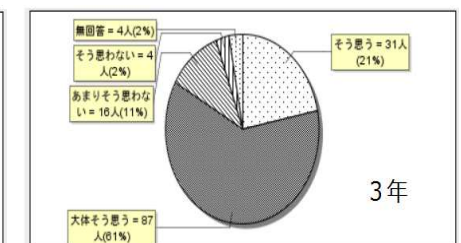
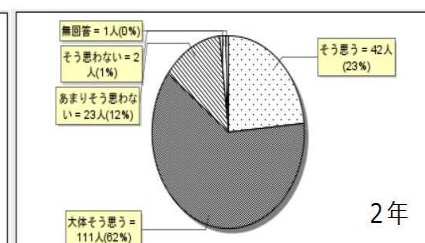
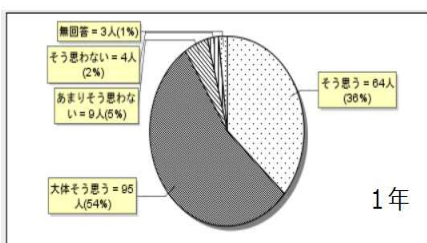
「学校に対する愛着」は学年が上がるにつれて数値が増す。1、2年生の「そう思わない」生徒が意外に多い。本校の生徒の特色として、環境に馴れるまで少々時間がかかる「はにかみ屋さん」的な特徴の表れかとも考える。創立37周年を迎え、親子の世代で通学する家庭もあるのに少々さびしい結果である。学区が広がったことも関係するのかもしれない。ただ中一ギャップや人間関係のトラブルが1年生に多い傾向を考えあわせると、思春期の心身の変化を的確に捉え、居場所作りや集団・人間関係づくりを積極的に行っていく必要がある。2の「校訓」については昨年度の1年生の認知度が低く今年も2年生が低い。校訓に触れるような話題や機会が職員の意識として薄いのか十分反省して改善していきたい。具体的には、全校集会や校長講話、授業やその他で折に触れその志や意味をかみ砕いて解説していく。3の「品位」については年間のテーマとして評議員会議やミニ集会等でも話し合ってきたこともあり全体的に意識が高い。4の「仲間を大切に」の質問は肯定的な回答が多いが、各学年とも「そう思わない」生徒も2桁あり友人関係や所属感で悩む生徒が存在し、それがいじめ等に連鎖しないように十分注意していきたい。

(2) 学習面について

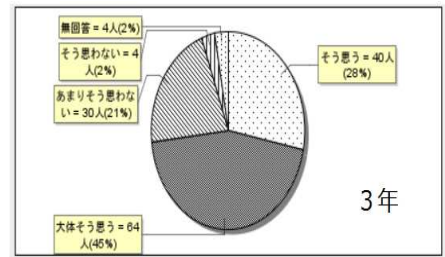
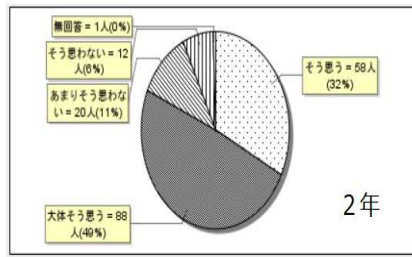
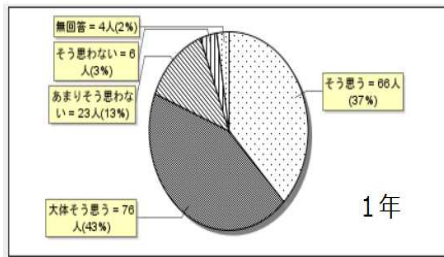
6. 授業でしっかり話を聴き、自分なりの考えを持とうとしていますか



7. 先生は授業を工夫して、わかる授業に心がけられますか

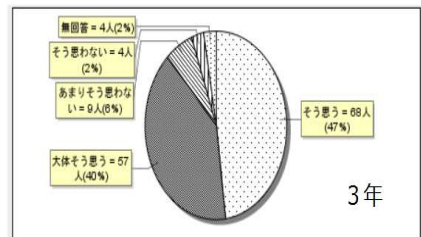
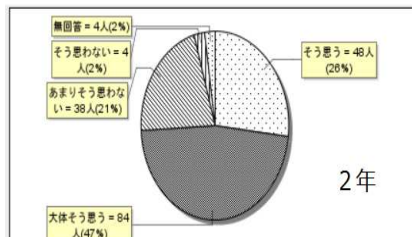
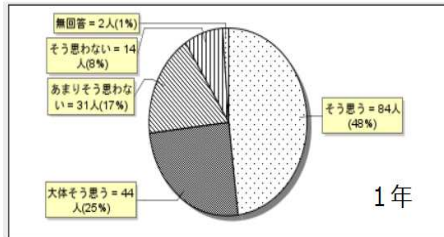


8. 通知票や自己評価表は学習意欲の向上につながりますか

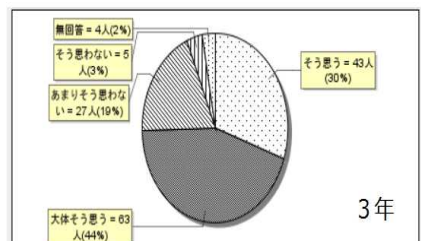
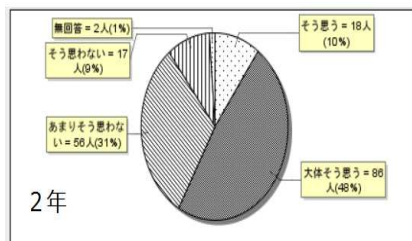
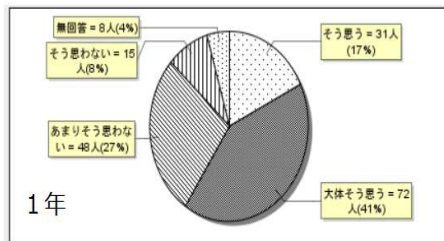


9

・家庭学習はしていますか



10. 自分の学力は向上してきていると思いますか

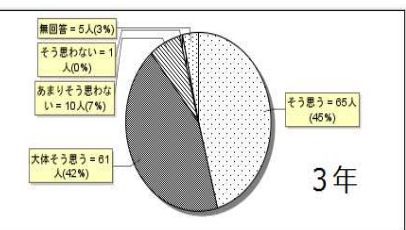
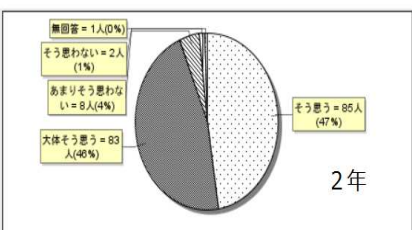
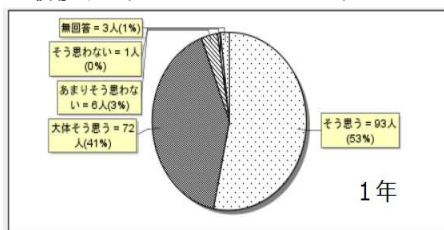


《考察》・・・(2)学習面について

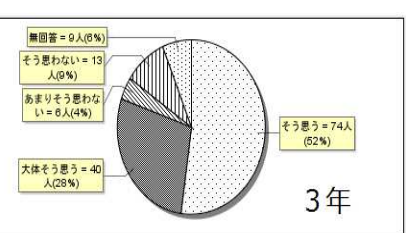
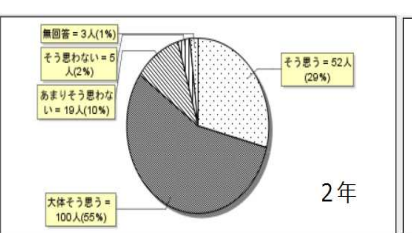
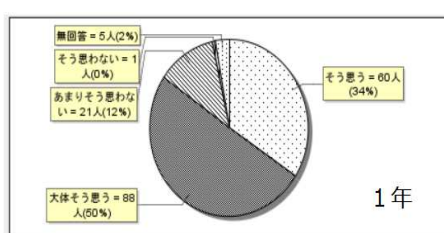
6の「授業態度」については、どの学年も真面目に取り組んでいる様子が分かる。7の「先生に対する評価」は学年や学級によって差が見られる。授業の質を平均化していくためには、時間・場所の他、学習課題の提示や評価基準・規準の生徒への明示。また授業における生徒の学習活動の保証など、職員間の共通理解が更に必要である。8の「通知票の評価や自己評価」については、生徒が評定と自己評価表を有効に活用し、次の学習の手立を考えられるようにアドバイスしたい。9の「家庭学習」については生徒も意識するところだが、家庭学習は予習、復習を通して基礎的、基本的な学力の定着を図ること。また補習的に宿題を出すこともある。到達度テストの点数で自分の理解度を知ること重要だが、やはり授業での「できる」や「わかった」の積み重ねが学力向上につながり、10の「学力向上」に肯定的な回答が増えるようになると思う。

(3) 生活面について

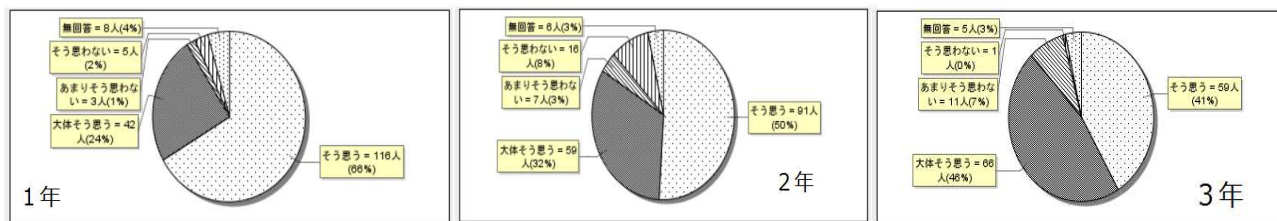
11. 挨拶や返事をしっかりしていますか



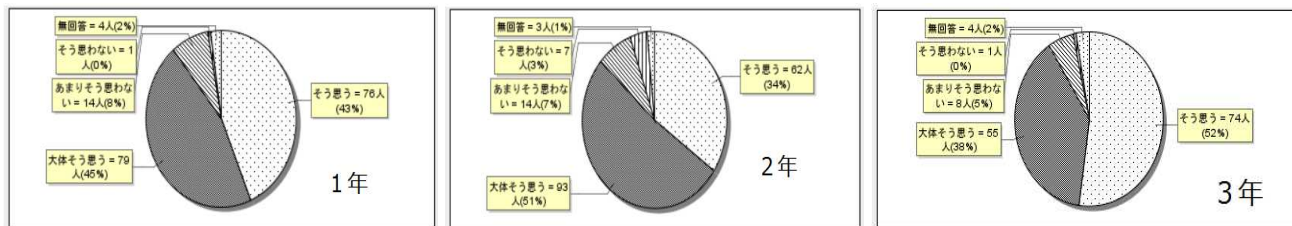
12. 清掃にしっかり取り組んでいますか



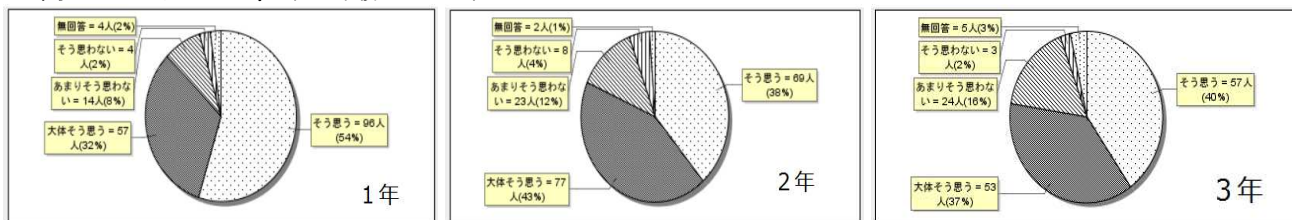
13. 部活動にしっかり取り組みましたか



14. 学年・学校行事に積極的に取り組みましたか



15. 学校からのお知らせは家の人に手渡していますか

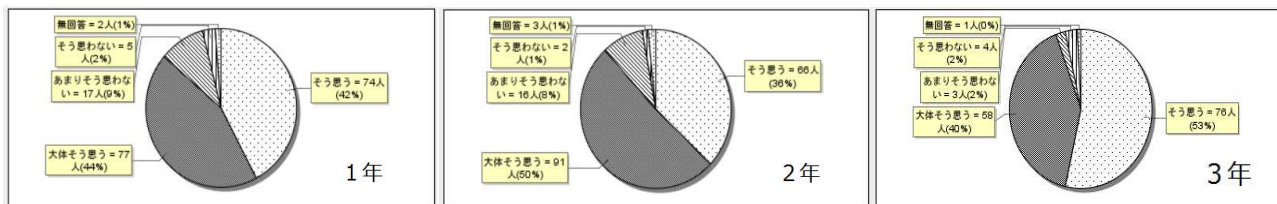


《考察》・・・(3)生活面について

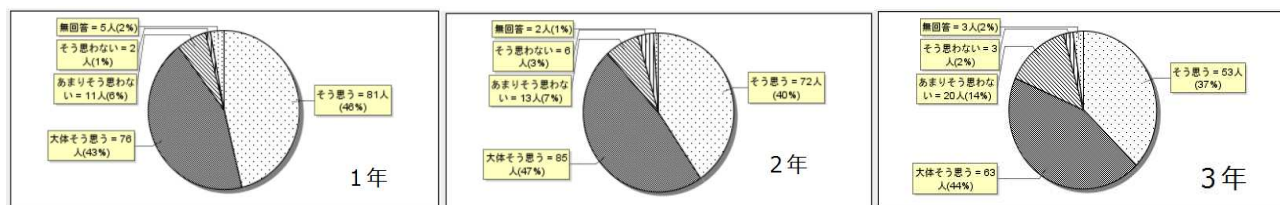
久寺家中の生徒は基本的な生活習慣が身につく、まじめな生徒が多い。11の「挨拶」については学校全体で意識が高まっている。部活動や学校行事へ積極的に取り組んでいる生徒も多い。12の「清掃」については改善の必要がある。13,14の「部活動・学校行事」では、積極的に取り組む様子がよくわかり、裏を返せば指導者は、学校行事や部活動で生徒のやる気を引き出し、その長所を伸ばしていける絶好の機会である。15の「学校からのお知らせは」100%家庭に届くのが基本であり、実態は10%～15%の可能性で届かない。それではお知らせの役割を果たさない。家庭との連携を密にし、早急に対応したい。

(4) いじめ、教育相談について

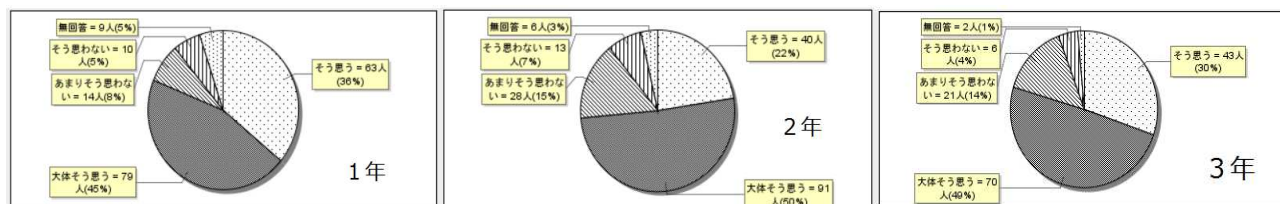
16. 学級、部活動での人間関係は良好ですか



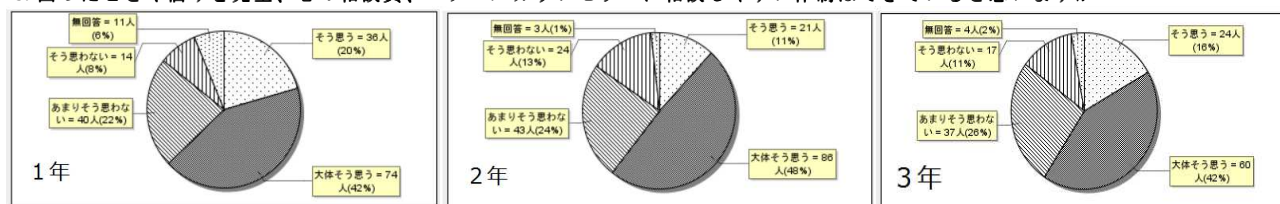
17. 先生はいじめのない明るい学級づくりに努めていますか



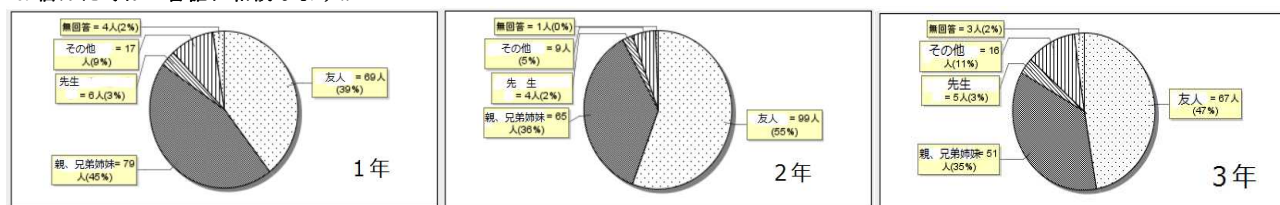
18. 先生はあなたのことを理解してくれていると思いますか



19. 困ったことや悩みを先生、心の相談員、スクールカウンセラーに相談しやすい体制はできていると思いますか



20. 悩んだ時は一番誰に相談しますか

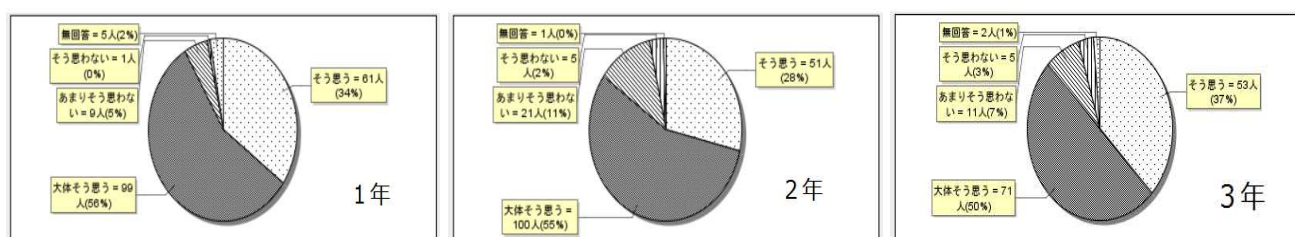


《考察》・・・(4) いじめ、教育相談について

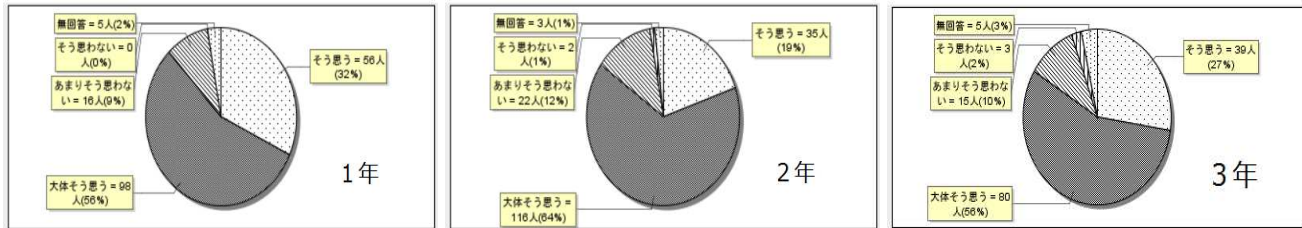
16の「人間関係」については学年が上がるにつれて落ち着いてくる。特に1年生は入学や部活動加入、教科担任制など環境の大きな変化がある。集団が熟成していくには時間がかかり、担任や教師集団は全体を掌握しながら個々へ対応していくことになる。その補助としてQ-U検査や面談なども有効に活用していきたい。17の「いじめ」に関して、何事もないと答える生徒より、いじめに対して高いアンテナを立て、いじめに嫌悪感を持っている生徒が多いほうが早期発見、早期対応につながりやすい面もある。本年度は市が行う年間2回の「いじめ調査」以外にも、水着等のものの紛失について臨時に調査を行ってきた。ただし18、20の結果を踏まえれば家庭との連携、教育相談の充実も重要である。19の「相談」に関しては、各学年で半数近くが「そう思わない」と答えていることに関して早急に改善する。

(5) 危機管理、その他について

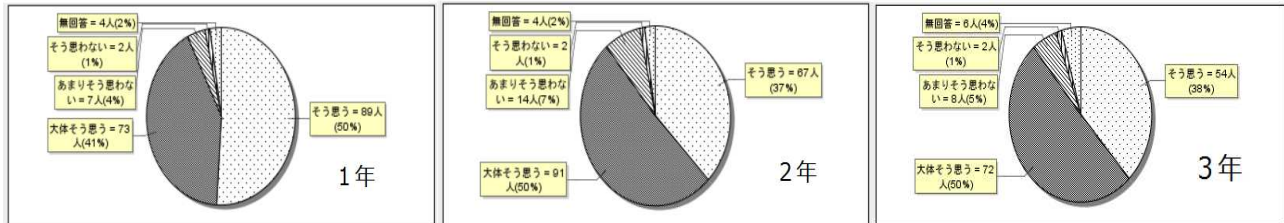
21. 学校のなかでは災害時、身の安全を確保できると思いますか



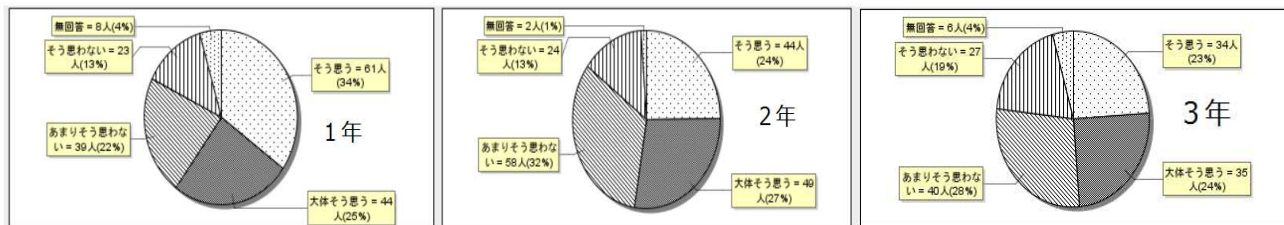
22、災害、不審者への対応、交通安全などに「自助・共助」の気持ちを持って対応できていますか



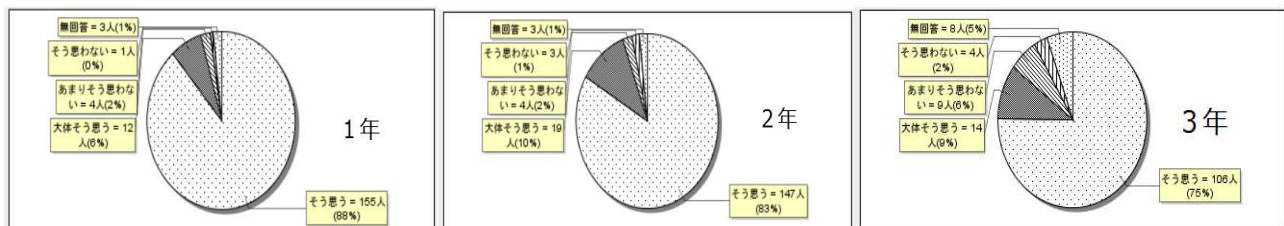
23、情報メディアを正しく使い、個人情報を守ることができますか



24、読書はしているほうだと思いますか



25、朝食を食べて学校に来ていますか



《考察》・・・(5) 危機管理、その他について

21の「災害」については震災の経験から防災に対する意識は高い。避難訓練にも真剣に取り組んでいる。昨年度から引き渡し訓練を行っており、今年度もスムーズに行われた。震度5以上の地震で学校で保護者引き渡しとなる。22の「自助・共助」の意識はやや薄めで1次避難はもとより、2次避難や避難場所への移動、単独での避難や家族との連絡など自助・共助の意識を育てる防災教育を進めていきたい。23の「情報」については、外の世界とつなげることに長けていても、不用意につながることによって無知な場合が多い。定期的にネットパトロールをしているが、つい最近の生徒指導で携帯電話トラブルとネットへの映像アップのマナーについての指導があった。機器や回線接続等の使用各家庭の責任であり家庭との連携が不可欠である。24の「読書」については足りないと感じてる生徒が多い。県のプロジェクトを受け読書時間の確保を朝の時間を中心に考えていきたい。

学校全体としてはよく勉強し部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる生徒が多い。勉強と活動を両立させ、落ち着いた学校になっている。それゆえにより高いレベルの学習活動を目指すことができる。また震災後の学校の安全やいじめ問題等を含め、住みやすい学校づくりを今後も目指していく。歴史を重ねるごとに卒業生が増え「自分の出た学校」を誇りに思えるような生徒が増える学校づくりをしていきたい。